2017年7月22日（土）
就労支援フォーラムNIPPON特別企画
「はたらくNIPPON!計画」A型フォーラムin大阪

『ネットワークの必要性とメリット』

～障がい者支援はチームの力・地域の力～

～共に学び、共に働き、共に生きる～
社会福法人花の会
業務執行理事・第2共働舎花の会 施設長　成瀬　修

〒569-1042　大阪府高槻市南平台三丁目29番10号　第2共働舎花の会
TEL 072-697-7033　/ E-Mail naruse@hananokai.info

自己紹介

・私は法学部を卒業して1999年に当時通所授産施設といわれていた施設に入職しました。

・2年ほど内職や農作業、手織りをしたあと、地域療育等支援事業という相談支援に従事して、2004年10月から高槻市障害者就業・生活支援センターを10年間、2014年から就労移行支援事業・自立訓練（生活訓練）に3年間従事していました。現在は生活介護施設の施設長をしています。

・福祉のことをまったく知らずに、この業界に入ったのですが、必死に勉強しながら、いろんな方々の助けを得ながらこれまでやってきました。これまでの経験から何か皆様に持って帰られるものが話せたらなぁ～と思い登壇しました。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

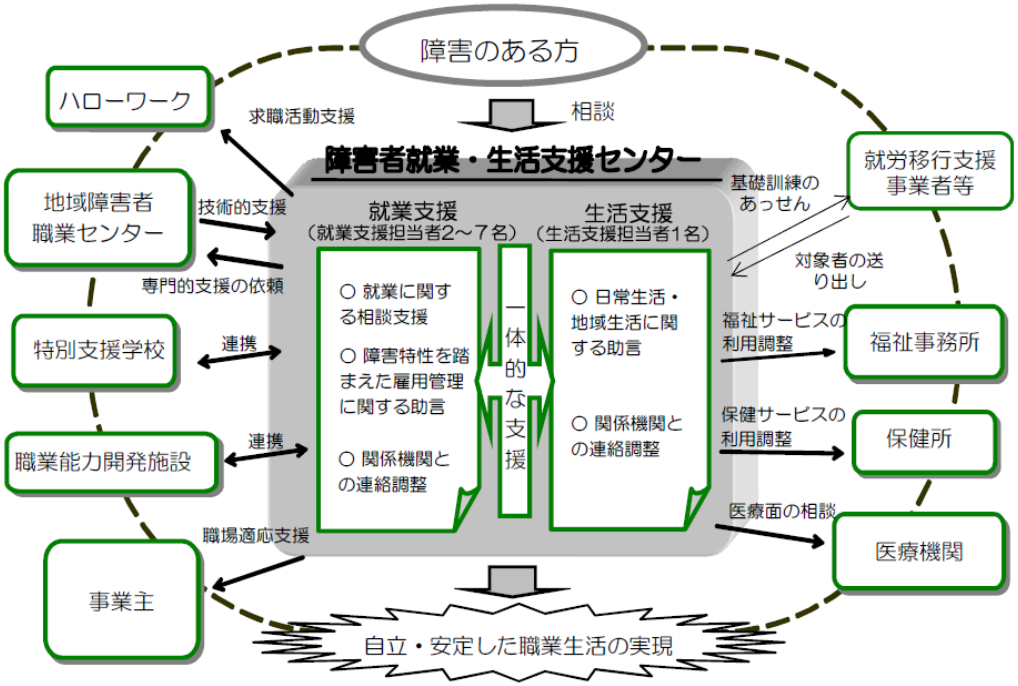
障害者就業・生活支援センターの経験から・・
当初、登録者は約100名（現在は1,100名）、職員は3名
どないしよか・・

障害者の身近な地域において、就業面と生活面の一体的な相談・支援を行う

「障害者就業・生活支援センター」の設置を推進

21センター（14年5月事業開始時）→　332センター（29年4月現在）

雇用と福祉のネットワーク



業務の内容

就業及びそれに伴う日常生活上の支援を必要とする障害のある方に対し、センター窓口での相談や職場・家庭訪問等を実施。

＜就業面での支援＞

○　就業に関する相談支援
- 就職に向けた準備支援（職業準備訓練、職場実習のあっせん）
- 就職活動の支援
- 職場定着に向けた支援

○　障害のある方それぞれの障害特性を踏まえた雇用管理についての事業所に対する助言

○　関係機関との連絡調整

＜生活面での支援＞

○　日常生活・地域生活に関する助言
- 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言
- 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言

○　関係機関との連絡調整

みんなで勉強するために、たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークを立ち上げてみました。

	インプット	アウトプット	場づくり	共働作業
手段	講師を招き 連続講座	参加機関も発表 機関紹介・事例発表	毎月開催の会議 とたまに交流会	共有ツール作成 共同職場開拓 様々なプロジェクト （精神・基礎研修・ 施設見学など）
目的	制度・ノウハウ を学ぶ （共通言語）	相互理解 事例の蓄積 発表者のスキルアップ	本音で話し合える 関係づくり	コア人材の連携が 施設の連携へと発展

結果

就労支援に精通した頼れる人材が地域に増えると共に支援機関の連携が密接になる

地域の支援力の向上

トップの理解がないと、施設の外へ出られへんかもしれません。いかにネットワークが大事かを理解してもらう必要がある。

（理解のあるトップ）

・利用者が困っているんやから、あらゆる手段を使って支援をしていくんや。

・うちの施設だけで支援を完結できるわけがない。利用者のことを考えて連携していかないと。

・質の高い支援をしていれば、地域からの信頼も得られ、おのずと利用者も増えてくる。

（理解のないトップ）

・夕方に他機関と会議と懇親会？残業代は出せないから出席せんでいい。

・うちの支援ノウハウ（情報・人材）が流出するから、他の支援施設とは付き合うな。

・無理して就労支援せんでもいい。利用者がおらんようになるだけや。

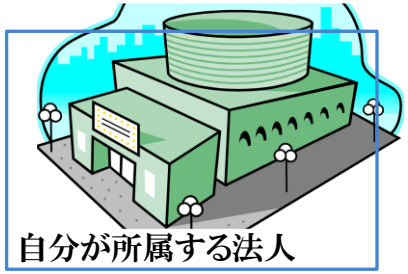
→他機関の協力を得ながら成功事例を作り、トップの理解を得る必要がある。

自分の軸足をどこに置くかで、支援の内容は大きく変わってくる。悩んだ時の判断基準にもなる。

障がいのある方

保護者・家族

取引先企業


自分が所属する法人

自分自身

もちろん、福祉施設になるので、一番大事なのは、障がいのある方のために支援をせんとアカンのです。

連携における姿勢とポイント
連携相手のことをよく知ることが大切+自分たちの組織のことを伝えることが大切

連携における姿勢

- 立場の違いを十分に認識する
- 相手の得意、不得意を知る
- 制度、支援機関の限界を知る
- 最適な情報交換の方法を確立する
- 組織ではなく個人としての相手を理解する
- 自組織の広報活動も行う（得意、不得意を伝える）
- どうしようもない相手であっても変化を期待して見守る

連携のポイント

【支援について】

- 制度の使い方などノウハウ
- 困っていることを正直に話して一緒に解決策を考えてもらえるよう依頼する
- 相談業務をしている人は人脈も知恵も知識もあるので仲良くしておく

【仕事そのものについて】

仕事に行き詰った時の相談先、社外での師匠をみつける

資料：高槻市障がい者就業・生活支援センター
法人内の就労移行支援事業担当者向け研修資料より

参考事例

〇生活面の支援が足りなかった・・

母と妹と三人暮らしのAさん。就労移行支援事業所を経由して、就労継続支援A型事業所を利用するも、他の利用者からお金を借りたり、隠れていじめをしていた。ある時、上司（職員）に見つかってしまう。何度かAさんに注意をしたものの、繰り返し他の利用者からお金を借りることをしており、「うちでは面倒みきれんわ」ということになり離職に至る。その後、Aさんがどうなったか知らない。

[対処例]

・市役所や地域の相談支援センター、障害者就業・生活支援センターなどに相談する（生活費の確認、本人の金銭管理の支援、友人との接し方の支援、離職後のフォロー依頼）

参考事例のポイント

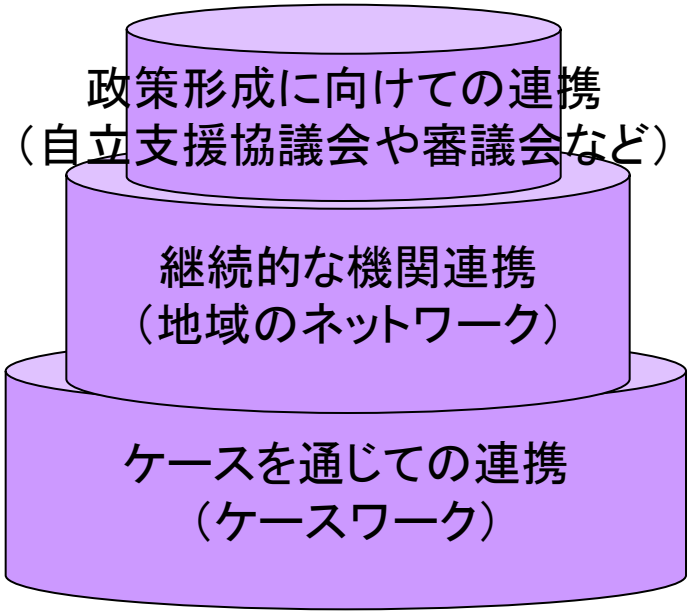
★施設が困難な状態を丸抱えをしてしまい、利用者が外部の支援を受けられない状態になっていた。

→地域には市町村の障がい福祉担当課や相談支援センター、障害者就業・生活支援センターなど相談できるところがあります。自分たちで悩んで解決しなければ、他の専門家の知恵と経験を借りましょう。

★他の施設からみたら、「ここの事業所に入ったら、その後の様子がわからないようになる」という不信感が沸く。離職は仕方ないが、丁寧なフォローが地域からの信頼につながる。

ネットワークにも種類があるが、まずはケースを通じての連携から顔の見える関係を作っていくことが大切。

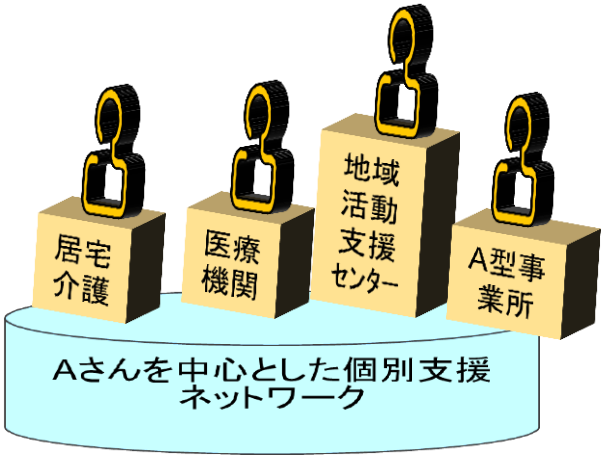
3層構造のネットワーク

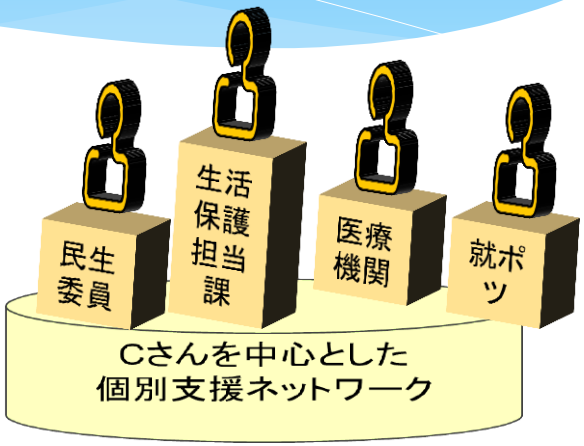


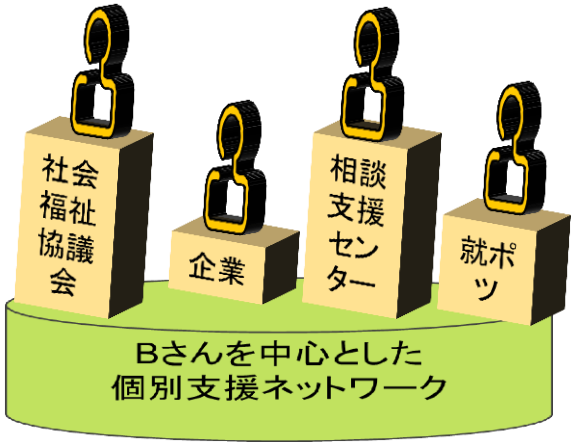
	ケースを通じての連携	継続的な機関連携
目的	対象者に対する効果的・効率的な支援の形成	地域の仕組みづくり
メンバー	支援に必要な人材	就労支援に関係する機関の実務担当者や管理者
会合の頻度	支援の進捗状況により会合を開催	事務局が調整
終結	長期的に支援を行う場合でも短期のゴールを設定し一旦終結	社会情勢の変化等により次のステップへ移行

資料：松為信雄2009
『地域における障害者の就労支援ネットワークに関する調査研究』NPO法人 ジョブコーチ・ネットワーク

自分たちだけで解決しないことがたくさんあるので、利用者独自の個別支援ネットワークを構築していく必要がある。







個別支援ネットワークのポイント

* ﾊﾞﾄﾝﾀｯﾁ型（ここから担当が変わる）の支援ではなく、関係機関（市役所、学校、社会福祉協議会、相談支援センター、就業・生活支援ｾﾝﾀｰ、ｼﾞｮﾌﾞｺｰﾁ、医療機関、等）が連携するネットワーク型の就労支援へ。

* 一緒に支援していくのが大事やねんで～

資料：すいた障がい者就業・生活支援センター　井上正治 氏
2007/2/3　たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワーク 講演資料より一部改編

最後に皆様へ

失敗を恐れずに・・・

* ちょっと勇気だして、この研修で名刺交換した方の施設に、どんな取り組みをしているのか見学しに行ったり、近くの支援機関に、いろんな疑問をぶつけてみたりしたらいいと思います。

* 「こんなん聞いてもええんかなぁ」と恐れずに、恥ずかしがらずに、ここは気合をいれましょう！

* あなたの、はじめの一歩がネットワークづくりのスタートです。

* 皆様のご活躍を祈念しております。
* ご清聴ありがとうございました！！